

ちいきのわだい

7月6日
落合球場

仙北市消防訓練大会 訓練の成果を発揮

7月6日、仙北市消防訓練大会が落合球場駐車場で開催されました。市内の消防団10個分団から、小型ポンプ操法の部に23チーム、規律訓練の部に7チームが出場しました。出場した団員の皆さんは、日頃の訓練の成果を存分に発揮し、持てる技術を競い合いました。

各種目の上位3チームが、7月19日に大仙市で行われる大仙・仙北・美郷支部消防訓練大会に進みます。



小型ポンプ操法：消防用ポンプを操作し、ホースを連結させ、10m先の的へ放水します



規律訓練：指揮者の指示通りに規律よく団体で行動します

- 【主な結果】(敬称略)
- 小型ポンプ操法の部
 - 優勝 第4分団2班 (神代地区)
 - 準優勝 第8分団2班 (白岩地区)
 - 第3位 第10分団2班 (中川地区)
 - 個人表彰 (優秀隊員)
 - 指揮者 阿部慶之 (第9分団1班)
 - 1番員 荒木田浩生 (第3分団2班)
 - 2番員 佐藤直也 (第8分団2班)
 - 3番員 高橋和彦 (第8分団2班)
 - 規律訓練の部
 - 優勝 第9分団 (雲沢地区)
 - 準優勝 第8分団 (白岩地区)
 - 第3位 第4分団 (神代地区)

6月30日
大仙市

空き家の解体を支援

秋田銀行と県南3市町が提携

秋田銀行では、空き家の解体を支援する「空き家解体ローン」の運用が始まりました。この運用に合わせて、仙北・大仙・美郷の3市町は秋田銀行と6月30日、「空き家解体ローン」提携に関する覚書を取り交わしました。このローンは、店舗や工場を除く空き家の所有者やその家族を対象に、資金不足により解体できずにいる皆さんへ支援をするものです。通常年2.5%の金利ですが、解体のために市の補助



秋田銀行との協定書に署名する門脇市長 (中央)

金(危険老朽空き家補助金)が該当する場合、金利が2.0%に下げられます。

7月6日
仙北市民会館

海上自衛隊 大湊音楽隊コンサート

美しい響きと歌声に歓声上がる



昨年大ヒットした演歌「南部輝しぐれ」を披露。すばらしい演奏と歌声に会場からはこの日一番の歓声が上がりました。

7月6日、海上自衛隊大湊音楽隊コンサートが仙北市民会館で開催されました。

コンサートは2部構成で行われ、「平和を守る者」「ブラジル」「南部輝しぐれ」など様々なジャンルの曲を演奏。音楽隊の息の合った演奏に、会場に詰めかけた大勢の聴衆から声援や拍手が送られました。また、演奏後には口ビード隊員一同によるお見送りが行われ、演奏の感想を伝えたり、握手を求める様子などが見られ、コンサートは大盛況のうちに幕を閉じました。

6月27日
仙北市

仙北市議会定例会で市副市長選任 副市長に倉橋典夫氏

6月27日の仙北市議会定例会の最終日に、副市長選任案が追加提案され、3月に田邊浩之副市長が退任した後、不在となっていた仙北市副市長に倉橋典夫氏(61歳・田沢湖生保内字下手倉)が選任されました。任期は7月1日から4年間です。

倉橋氏は、昭和52年田沢湖町役場に入り、農業委員会事務局長、議会事務局長を務め、仙北市となってから仙北市総務部企画政策課長、教育委員会教育次長、農林部長、総務部長を歴任し、平成25年3月に定年退職され、現在に至っています。



副市長 倉橋 典夫

- 【生年月日】昭和28年2月16日生(61歳)
【学歴】早稲田大学卒業
【主な職歴】▼昭和52年4月田沢湖町役場総務課▼平成13年4月農業委員会事務局長▼平成14年4月議会事務局長▼平成17年4月仙北市総務部企画政策課長▼平成20年4月教育委員会教育次長▼平成22年4月農林部長▼平成23年4月総務部長▼平成25年3月定年退職

6月29日
田沢供養仏地区

供養仏砂防堰堤が完成 地元住民の皆さんも参加し完成式典



高さが10メートル、幅が121メートルの砂防堰堤が完成しました

田沢字供養仏地区で建設中だった砂防堰堤が完成し、6月29日に完成式典が行われました。

式典では国、県、市の関係者や地元先達地区の皆さんも参加し、始めに災害で犠牲となった6人の冥福を祈り黙祷が捧げられ、先達町内会の下総芳則会長が「完成まで不安だったが、砂防ダムが多くの関係者のおかげでこのように早く完成し感謝しています」と述べました。

6月20日~22日
仙北市

海外学生グループが仙北市を訪問 体験通じて相互理解

6月20日から22日の3日間にわたりカンプジア、ミャンマー、東ティモールの大学生76人が仙北市内の農家民宿、農家19軒に宿泊し、農山村体験をしました。日本の魅力やブランドなど日本的な「価値」について国際的理解を目指し、日本政府が進める「JENESYS20」事業で仙北市を訪れた皆さんは、各国で都市工学・都市計画などを学んでいるそうです。

角館町での武家屋敷見学や、宿泊先の農家での様々な体験を通じて交流を深めていました。



流しそうめんや味噌たんぼづくりも体験しました

7月2日
秋田市

国際教養大学と協定 異文化交流の推進に協力体制

7月2日、仙北市は国際交流に関する提携プログラム協定を国際教養大学と交わしました。

この協定は、互いの資源や機能を活用し相互交流を深めるとともに、異文化体験を通じ、地域活性化や国際的な理解を深めていくことを目的とし結ばれました。

今後、交流人口増加を目指す仙北市にとって、この新たな交流が生み出す様々な効果に、大きな期待が寄せられています。



交わした協定書を手にする鈴木典比古学長と門脇市長

6月22日
角館保育園

秋田建築労働組合角館支部 作業ボランティア

6月22日、秋田建築労働組合角館支部（鈴木辰彦支部長）の皆さんが、角館保育園にボランティアで訪れ、園内の補修を行いました。



手早く修繕作業を進める組合員の皆さん

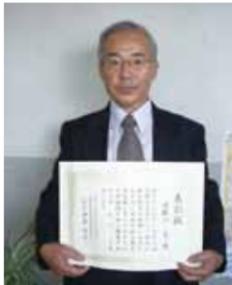
当日は、鈴木支部長のほか3人の組合員の皆さんが、園内の柵の取り付けや、子どもたちが使う遊具など、様々な補修を手際よく進めました。

皆さんのおかげで子どもたちも今まで以上に、安心して園生活を送ることができそうです。

6月27日
秋田市

秋田県社会教育委員連絡協議会表彰 平成26年度受賞は羽根川覚さん

6月27日に秋田県生涯学習センターで開催された平成26年度秋田県社会教育委員連絡協議会表彰を受賞しました。



地域に貢献された羽根川覚さんに表彰状が贈られました

員連絡協議会評議員会で、仙北市社会教育委員の羽根川覚さんが秋田県社会教育委員連絡協議会表彰を受賞しました。

羽根川さんは平成20年から社会教育委員として地域の社会活動や第2次仙北市社会教育中期計画策定などに積極的に取り組まれ、社会教育の振興と発展に尽力されたことが評価され、今回の受賞となりました。

6月20日
市役所田沢湖庁舎

田口本店から仙北市へ 書籍を寄贈

この度、有限会社田口本店（田口威一郎代表取締役）から事業所法人設立50周年を記念し、書籍「心に響く小さな5つの物語」206冊を仙北市に寄贈していただきました。

書籍は図書施設のほか、市内の小中学校12校の各クラスに配布されました。多大なるご厚意に感謝いたします。



仙北市長に書籍が手渡され、各小中学校等に届けられました

6月27日
東京都

内閣府女性のチャレンジ賞特別賞 藤井けい子さんが受賞

内閣府が平成16年から実施する「女性のチャレンジ賞特別賞」に、西木町で農家民宿「泰山堂」を営む藤井けい子さんが選ばれました。



内閣府で行われた授賞式で菅官房長官との一コマ

となりました。藤井さんは「受賞は皆さんのおかげ。これからもがんばりたい」と話しました。

4月24日
仙北市

ふるさとマイスター真崎正子さん 郷土料理本を作製

せんぼくふるさとマイスターの真崎正子さんが、この度、地元料理を「ふるさとの味」百四十七選 地域で受け継いでいきたい伝統の味」と題した本にまとめました。「県南の豊富な食材や、ふるさととの味を伝える一助になれば」と真崎さん。



料理の撮影もご本人が行った力作レシピ本です

た方は、真崎さんまでご連絡ください。
問合せ
真崎正子 ☎(44) 2666

6月29日
仙北市民会館

国民文化祭開幕まであと100日を切りました 100日前カウントダウンイベント開催



大正琴の音色とコーラス隊の歌声に合わせて秋田県民歌が大合唱されました

6月29日、仙北市民会館を含む県内8会場で「100日前カウントダウンイベント」が開催されました。大仙・仙北地区会場の同会場では、開催事業に関連する演目が披露され、ささらや飾山囃子、秋田と仙北の民謡や大正琴、ジャズの演奏などで会場を大いに盛り上げました。午後3時30分には、県内の全会場で同時に県民歌が合唱され、仙北市民会館では、大正琴の優しく温かな音色に合わせて、観客の皆さんと一緒に会場全体で県民歌を合唱しました。



角館高校飾山囃子部



国見せせら



PJQ [Patrick Jazz Quinted]

まちづくり 日記

No.68

『町家・角館プロジェクト』

仙北市長
門脇 光浩

6月市議会定例会が最終日の6月27日、角館榊細工伝承館で、「町家・角館プロジェクト」の報道発表が行われました。同プロジェクトは、株式会社町家ホテルが事業運営主体となって、協働社角館プラザ跡地を活用し、町家ホテルの新築や生活サービス施設、農商工観連携の6次化施設、銀行など複合エリアの実現を目指しています。もともと6次化施設は、仙北市と株式会社あきた食彩プロジェクト・北都銀行の3者が平成25年9月に締結した「成長戦略協定」の中核事業でした。

同プロジェクトは、市民生活を潤し、農林業の加工を推進し、観光客のおもてなしをさらに充実する、そんな機能が集積します。エリア中央部の『中庭』は、コミュニケーションの場として、イベント開催やテートの待ち合わせに利用されるでしょう。

ところで、皆さんに長く親しまれてきた協働社角館プラザは、角館のシンボリックな存在でした。協働社の創業者は仙北市西木町出身の故浅利喜智治さんです。

東北各地にテパトやホテル事業を展開する中、角館プラザは発祥の地、故郷に対する熱い思い入れが結実した店舗と言われています。その協働社のマークが、スングリムツクリな赤いウサギだったことを記憶する方も多いのでは…。この不格好さには意味があって、あえて「冗舌は慎めと口は記さず、他人の話を良く聞けと耳は長く、亀に負けた愚行を忘れるなど足は短く」描いたんだと。

それより一昔前、つまり協働社角館プラザが建つ前は、「國の花」の醸造元、仙北酒造がありました。当時は近所を歩く、カラカラと一升瓶を洗浄する音が聞こえたそうです。今も國の花を懐かしむ声がありますが、ここから秋田を代表する杜氏が多数輩出され、各地で大活躍している話を聞いて、何となく誇らしい気がしています。

町は生きています。そして変化します。町家・角館プロジェクトは、時代が求める役割をきつと果たしてくれると思います。